

放射線療法の提供体制構築に資する研究
令和6年度第1回全体会議

-小線源治療の適正な提供体制の構築-

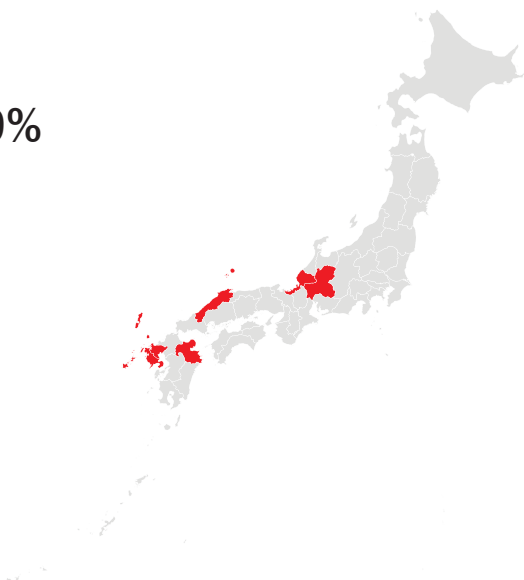
研究分担者： 生島仁史

研究協力者： 日本放射線腫瘍学会・小線源治療部会・将来計画小委員会

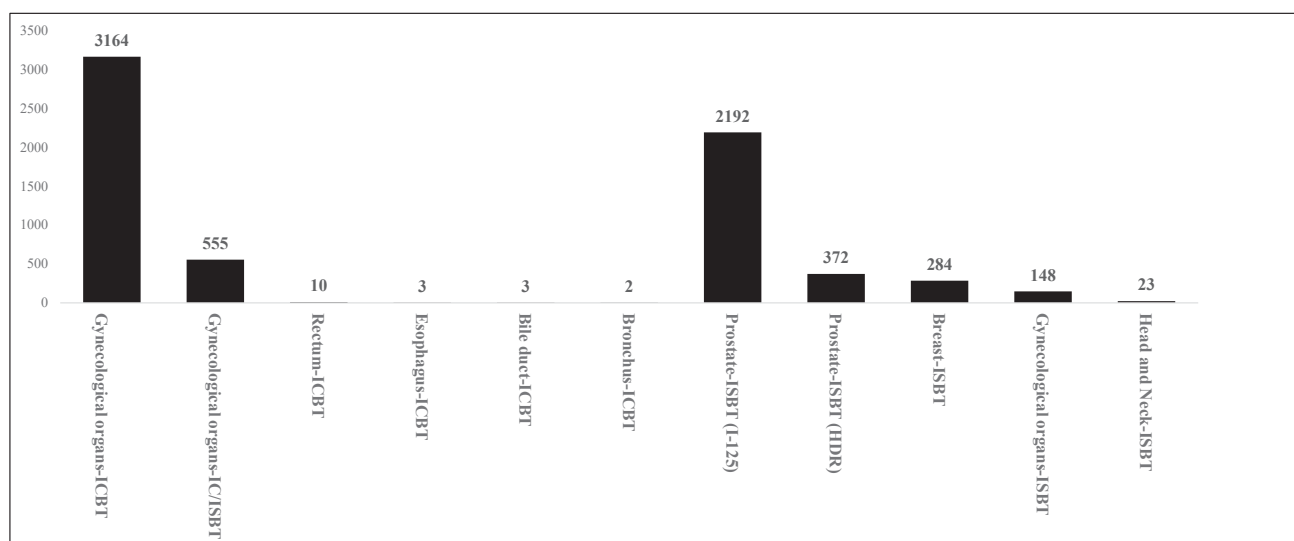
IGBT実施施設の有無

IGBT実施施設がない都道府県

IGBT未実施施設：29%



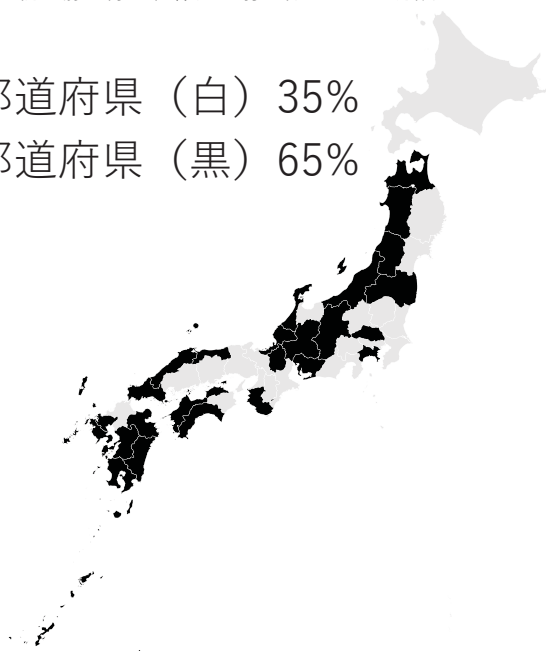
疾患・治療法ごとの患者数



組織内照射実施施設の有無

前立腺を除く組織内照射を行っている施設

- 実績あり20都道府県（白） 35%
- 実績なし37都道府県（黒） 65%



2021-2022大西班・提言

1. 小線源治療は施設設置の点では均てん化されているが、治療技術と症例数は施設や地域ごとにばらつきがあり、治療技術の均てん化を図る必要がある。IGBTの全施設での実施を具体的な目標とすべきである。
2. 小線源治療患者数の少ない施設が一定数存在する。これらの施設は集約化の対象として検討されるが、患者アクセスなどの種々の事情が勘案される必要がある。
3. 婦人科腫瘍以外の腔内照射や前立腺癌以外の組織内照射は、地域ごとに実施可能施設を設置し、施設間連携を推進することで集約化する必要がある。
4. 小線源治療教育を充実させるため、施設間連携と学会主導による教育プログラムの確立と教育機会の提供が必要である。

進捗状況と予定

対応策の実施

課題1. 治療技術の均てん化を図る必要がある。IGBTの全施設での実施を具体的な目標とすべきである。

➤学会によるIGBT教育

●実施済

- ハンズオンセミナーを2回実施、その成果に関してアンケート調査を行いJRRに論文発表

●今後の予定

- 第3回ハンズオンセミナー（京都府立医科大、増井先生）
- 婦人科腫瘍に対する組織内照射併用腔内照射教育用ファントム制作（JAWROのご協力、伊勢赤十字病院、伊井先生）
- 小線源治療教育用動画制作



進捗状況

対応策の実施

課題2. 小線源治療患者数の少ない施設が一定数存在する。これらの施設は集約化の対象として検討されるが、患者アクセスなどの種々の事情が勘案される必要がある。

- 地域ごとに集約化の取り組みが実施されている。
- 集約化の進捗を評価するため2023年の診療状況調査を実施中
 - 2024年6月～診療状況調査実施中
 - 2024年7月～未回答施設に再度依頼中
- 今後の予定
 - 2021年と2023年のデータを解析し集約化の進捗を明らかにする

進捗状況と予定

対応策の実施

3. 婦人科腫瘍以外の腔内照射や前立腺癌以外の組織内照射は、地域ごとに実施可能施設を設置し、施設間連携を推進することで集約化する必要がある。

4. 小線源治療教育を充実させるため、施設間連携と学会主導による教育プログラムの確立と教育機会の提供が必要である。

- 学会による小線源治療教育支援の仕組み作り

- 小線源治療研修施設設置
- 小線源治療技術支援医師派遣制度

2023/8/31

第1回小線源治療部会将来計画小委員会で検討

2023/10/18～31

第2回小線源治療部会将来計画小委員会(メール会議)で検討

2024/2/6

第3回小線源治療部会将来計画小委員会で検討

2024/5/24

日本放射線腫瘍学会小線源治療部会・常任幹事会・幹事会で承認

2024/8

日本放射線腫瘍学会・総務/財務委員会へ上申